防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 149 号(2019. 8. 1)
事務局 川西地区自主防災会

東日本大震災による液状化災害の復興活動から体験したもの

有限会社 曳家岡本
代表取締役　岡本 直也
https://www.hikiyaokamoto.com/

有限会社 曳家岡本　 1964 年高知市にて創立。----------
2011 年の東日本大震災で千葉県浦安市の復興対策本部に招聘されたことを契機に全国で沈下修正工事、曳家、社寺古民家の修復工事を行っている。
2018 年 「曳家が語る 家の傾きを直す 沈下修正 ホントの話」(主婦と生活社) 刊行
テレビ・雑誌出演多数。現在　年間 10 回程度の沈下修正工事に関するセミナーを各地で行う。
香川県内では、丸亀市にて２棟の社寺の沈下修正工事、坂出市で書院と茶室の曳家工事を行っている。

１．復興活動の概要

（１）活動地域（場所）
　　東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県、茨城県、宮城県

（２）活動の期間
　　2011 年 4 月 12 日～現在

（３）活動内容等　（活動の依頼先）
　　沈下修正工事、軸組補正工事

２．具体的活動内容

作業手順

作業のポイント

ジャッキアップの精密さは当然ながら、据え付け固定を大切にする。

1 戸当りの工期、標準的工費　　2 週間、250 万円

３．液状化に備えた家づくりのポイント

（例えば）　立地条件（このような地形や土地環境には家を建てない）

例えば造成地なら切土の部分を購入する。かつての谷、池、田んぼなど地盤がやわらかい土地は避ける。

また液状化ではないが、近年の短時間での集中豪雨を考慮すると山崩れの懸念から、山すそからは 30m 以上離れた土地を購入すること。

新築を建てる場合は、地盤検査（ＳＳ検査であれば 3 万円前後）をした上で、地盤補償保険（5 年で 10 万円まで）に加入しておくこと。
工務店や大工の中には「ここの地盤は固いから大丈夫」とか「柱の数を多くしてあるから大丈夫」と言って手続きを避ける人もいるでしょうが、それは何の補償もしてくれません。

2000 万円ほどの大きな買い物に対して必ずしておくべきことです。
但し、「万が一、家が地盤沈下で、傾いても保険に入っているから大丈夫です」というのは本末転倒です。

傾かないお家を建てておくべきです。
簡単に言うと地盤と上部構造の一体設計です。

旧来の工務店さんの中には「地盤のことは地盤屋の領分だから建築とは別もの」と言う方もいます。ですが、今ではそうした考え方は誤りだと思います。

例えば、かつての住宅は、押し入れがあって、床の間があってと部屋が細かく分けられていて、その分、柱の数も多かったわけです。
柱が多いと地盤に与える負荷も分散しますから、Ｎ値（地盤の強度を示す数値）が劣っていても沈下は起こりづらかったわけです。

近年は、間取りを拡くしたいことから、柱を極力、減らすことに腐心している工務店も

多くいます。
特にリビングとキッチンを大空間にしている事例は少なくありません。
よく「大きな梁を入れてあるから大丈夫」もしくは「梁は300ｃｍの鉄骨を取り付けているから大丈夫」などと言う方もいます。

いやいや例えばですが6本の柱で支えていたものを2本の柱で支えたら、上に乗っている荷重は同じですから、2本の柱がそれまでの負荷を一気に背負わなくてはならなくなります。

仮に１本の柱が 800 ㌔の負荷を担当していたのが、2400 ㌔を受け持つようになるわけですから。
これだと地盤沈下を促進しているようなものです。

2階建ての住宅の場合、1階は2階の重量も受けていますから、より強くなくてはなりません。
ですから、理想は柱を少なくしたいリビングは2階に持ってゆくべきです。
子ども部屋や収納､浴室などは1階にすることで､1階に柱を多くすることが出来ます。

また将来、災害等で修復をしないといけない時のことを考えると、構造用合板で固めた家には疑問を持たざるを得ません。
水没したり、破損した場合の取り替えが思惑、拡い範囲になってしまいます。

しかし､簡易に省エネ住宅が実現できることから構造用合板で造られる新築の勢いは止まらないかと思います。

無垢材を使うことでのメリットは充分あるのですが、今はデメリットの方を拡められているように思います。

構造用合板は 30 年程度で、劣化してしまうと言われています。
耐久性（通気を含む）と安価でランニングコストを控えられる省エネ住宅は相反する特性があります。

家は安心して眠れる場所であることが第一義だと思いますが、
ご自分の優先順位を考えて他人任せ（工務店や建築士）にせずに、どんな家に住むか？考えてみてください。

事務局だより

令和元年　8月

今月の事務局だよりは、かがわ自主ぼうの近況をお知らせします。

１．かがわ自主ぼう取組み報告

設立して 10 年も超え、昨年秋、「防災功労者　内閣総理大臣表彰」受賞したことから、平成 19 年 3 月に設立して以降の取組みを、「かがわ自主ぼう活動の軌跡」と題して 7 月 8 日（月）から 4 日間県庁 1F のギャラリーにおいて展示しました。

県庁東館工事中のため、庁外からのアクセスが非常に厳しいため、来場者は県庁職員の皆様と若干淋しい気もしましたが、写真パネルの展示は「熊本地震」と「西日本豪雨災害　岡山県真備町での活動状況」と当時の新聞記事を展示させていただき、更には約 10 年間にいただきました賞の数々（防災功労者内閣総理大臣表彰、総務大臣賞、防災担当大臣表彰、更には第 20 回防災まちづくり大賞、総務大臣賞等）と共に副賞としていただいた盾もお披露目させていただきました。

２．自治会加入促進活動の報告

自主防災活動と自治会活動は表裏一体の関係なので事務局を担当している丸亀市川西地区（世帯数 2,715）の最近の取組を報告します。

加入率 41.5%から 50%までは 6 年間要しました。50%から 56%までは 5 ヵ月間です。

急激に上昇気流に転じているのは、地道に訪問活動を行なっている結果でありますが、訪問する中でいろんな事に遭遇します。例えば、要配慮者のいる家庭、重度の障害者を支え生活している母親家庭、更には、少し動くと呼吸が乱れる 1 人住いの家庭など、地域コミュニティとして何らかのアクションが必要でないかと考えさせられる事象を多く発見しました。自からが家庭訪問することで気がついたもので、防災の次の地域アクションになるものでないかと痛感しました。

編集後記

７月の防災減災の輪は香川県社会福祉協議会様、８月の防災減災の輪は曳家岡本の岡本様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。